

付一 昭和から平成へ

歴代天皇の中で最も御在位が長く、また、国際的・国内的にも激動期であった昭和時代は、昭和六十四年一月七日早朝、昭和天皇の崩御をもって波瀾に富んだ幕が閉じられた。

この歴史的な転換の当日を中心に、滝川市内の表情や、行政的対応などの概要を記録として留めておくことにした。

昭和天皇の崩御

昭和六十四年一月七日午前六時三十三分、天皇陛下が崩御された。

陛下は、昭和六十二年九月、腸の病気で歴代天皇としては初めて入院、手術を受けられた。退院後はほぼ順調に快方に向かい、公務は皇太子殿下と分担されて一部復帰、生物学研究も再開されるほどの回復ぶりであった。しかし、高齢のうえ手術前にくらべ体重が約一〇キロも減少、体力低下や貧血症状がみられた。

手術後ほぼ一年経過した六十三年九月十八日、臍臓の病変部が悪化し、三八度を超す発熱があり、十九日夜には大量に吐血、重態に陥られた。以後、数回に及ぶ危機を、総量三万ccを超す大量輸血を主体とした治療で乗り越えられたものの、病状は一進一退を繰返す、十二月末からは出血が続き、腎機能が低下、意識が混濁するな

ど全身衰弱が進んだ。越えて一月五日からは血圧が六〇台に低下した状態が続き、容態は更に悪化し、国民の平癒祈念も空しく遂に一月七日吹上御所において崩御されたのである。

政府は直ちに元号を改元し、政令第一号で改元に伴う必要な措置を全国自治体に通知し、その徹底をはかった。

滝川市における対応

一月七日、天皇崩御の報を受け、市長は執務に先だち庁内放送を通じて弔意を表し、全職員とともに黙とうを捧げたあと市幹部職員を集めて崩御に伴う今後の対策について必要な指示を下した。

その概要は、改元に伴う事務的な処理、看板標識等の元号の書替え、弔旗の取扱い、市職員の喪章の扱いなどである。

一方、吉岡市長と居林市議会議長は市民の弔意を表する集いを開催すべく協議し、関係団体長と連けいを図り、平成元年一月九日午前十時から「大行天皇崩御弔意を表する市民の集い」を開催することをきめ、市民に呼びかけることとした。

（関係団体長―滝川市長・滝川市議会議長・滝川市農業協同組合長・江部乙農業協同組合長・滝川市商工会議所会頭・江部乙商工会長・滝川市建設協会会長・滝川市金融協会会長・滝川市町内会連合会連絡協議会会長の九名）

大行天皇崩御弔意を表する市民の集い

吉岡市長など九つの官公庁、団体の長が共催する「大行天皇崩御弔意を表する市民の集い」が、九日午前十時から市役所大会議室で開催され、約四〇〇人の市民が参列した。

開会に先立ち、荒島助役からこの集い開催の趣旨と経緯が簡潔に説明され、黙とうから集いが始まった。

まず吉岡市長から哀悼の言葉があり、引続いて居林議長、岡田商工会議所会頭から、それぞれ弔意や今後の決意を亡き天皇の思い出を交えながら述べられて集いを終えた。

なお、当日この会場に記帳所を設け参集した市民が記帳したが、このあと一階のロビーに移され、白菊が飾られた記帳台で、市役所を訪れた市民が続々と記帳する姿が見られた。

江部乙支所でも記帳所を設けたが、九日当日午後三時までの記帳者は五六五人であった。記帳は一月十二日午後五時に閉められたが合計一、四七〇人であった。また、記帳簿及び市民の集い、記帳の状況掲載の新聞切抜き、写真などを平成元年一月十四日、滝川市長名をもって宮内庁総務課長宛送付した。

街の表情

「昭和」が最後の日となった昭和六十四年一月七日、故天皇の御逝去を悼むさまざまな動きが官民を問わず全国的に繰広げられ、日本列島は「服喪」一色に包まれた。

この日、滝川市内でも街には半旗・弔旗が掲げられ、街頭放送も中止するなど弔意を表す市民の動きが随所に見受けられた。こうした街の表情について地元新聞「プレス空知」（二月十一日刊）では七日以降十日までの模様を次のように報道している。

七日のこの日、市役所では、故天皇陛下に叙勲や地方自治施行三十周年記念式典、園遊会などでお会したことのある吉岡市長が、庁内放送で弔意を表明。

全職員が一分間の黙とうを捧げて業務についた。各公共施設の国旗ポールは、すべて半旗が掲げられた。この日、午後から予定されていた東滝川地区の消防出初め式は屋外行事が中止、すべてが屋内で行われた。また、江部乙地区の防

火パレードは取止めとなった。市関係の主だった行事は、この日はこれだけで大きな混乱はなく、十五日の成人式も予定通り行われる。

街中では、ショップメイトの街頭放送が七日から九日まで中止して静かに。また商店街や事務所、民家でも、これまで見たことがなかったほどの日の丸の弔旗・半旗が掲げられ、弔意を表した。

そのほか、市内のホテルでは開催予定の各団体の新年恒例のキャンセルが相次いだ。すでに料理の仕込も終えていたところもあったが「これははっきりは仕方がないですね」とあきらめ顔の担当者。

ショップメイトや三師会の新年会、某代議士の後援会交歓会などが中止または延期となっている。市内の商店街やネオン街に音楽を提供している栄町二丁目の大阪有線放送社には、七日前から「静かなクラシック音楽を流してください。」「クラシック音楽を放送しているのはどのチャンネルか。」などの問い合わせが相次いだ。

歌謡曲を通常通り流したものの、ほとんどの商店ではクラシックのチャンネルに合わせたところが多く、しかもボリュームも最小限におさえていた。

中空知一の歓楽街、当市、本町の三葉街も七日の夜は、三分の二近くの店がネオンを消し、人の姿も若い人がチラホラ。カラオケも「自粛」する店が多かった。また、八日の日曜日は、ほとんどが休業し静かなネオン街に様変わりしていた。しかし九日からは平常通り営業を始める店が多く、再び活気をいくらか取り戻している。

混雑したのはパチンコ店とビデオレンタル店。「延々と続く天皇番組にあきた。」といった声が多く、パチンコ店はどこも七、八日の両日びっしり。パチンコ店の中には、音楽をクラシックにし、外灯を消して営業している店が多かった。

ビデオレンタル店では、七日午後から八日午後にかけて大混雑。「正月の三倍近くの入り。二日間二千人のお客さん。こんなにお客さんが来たのは開店以来。」とビックリする店員。ただ心から「喜んでいられないのか」ちょっとびり複雑な表情だった。

商店街の大型店では、店内に流れる音楽を「葬送進行曲」や静かなクラシック音楽に変えたほか、売り出し用の装飾物を取りはずすなどして営業した。また、従業員の服装も華美なもの避け、女性は胸に黒のリボン、男性は白いワ

インシャツに黒ネクタイ。また、礼服を着用するところもあった。期間は店によって違うが、だいたい一日〜三日間だった。

市内の金融機関では、七日朝の朝礼で天皇陛下崩御が支店長から伝えられ、平常通り営業したが、この日の渉外活動のセールスを取止めた。窓口の女子行員は黒いリボンを胸に着け、通常と変らず午前九時に開店しお客に接していた。店内の派手なPR看板も取外され、入口には七日には自粛する張り紙が掲げられ、玄関には弔旗が。

郵便局では、PR看板が開店前に職員の手で外され、入口には弔旗を掲げ哀悼の意を表していた。

日本歴史上最長六二年余に亘る昭和時代から、「平成の世」に移るといふ大きな変革を迎えた時点での滝川市の街の表情の一端が、この新聞記事を通じてうかがい知ることが出来る。

なお、新元号が「平成」と決まり、ラジオやテレビで放送されたのは七日午後二時三十五分過ぎであった。この日は土曜日であったが、市の担当職員は待機しており、報道を受けて直ちに電子計算機での処理業務をはじめ各種証明書、公文書などの元号切換え作業に取りかかった。これらの作業は深夜に及びすべて終了したのは翌日の午後八時であった。

また、NTT前と文化センター前の広報塔の「昭和六十五年開基百年、スポーツセンター前と国道十二号線沿いの「64年はまなす国体」の看板文字を、それぞれ「平成元年」に書換えるなど当面必要な措置を完了した。

一方、各官公庁や金融機関の対応も敏速に実施されたため、それぞれの業務遂行に支障がなかったと伝えられている。忙しかったのは市内の印章店で、七日の午後三時過ぎから「平成」のゴム印の

付一 昭和から平成へ

注文が殺到し、残業、徹夜作業で注文をこなしていた。

昭和六十三年九月以降の陛下の御容体から、危惧されていた事態ではあったが、すべて手際よく昭和の幕を閉じ、平成元年を迎えたのであった。

新しい元号「平成」について

昭和六十四年一月七日

内閣総理大臣談話

本日、元号を改める政令が閣議決定され、本日中に公布される予定であります。

この政令は、今般の皇位の継承に伴い、元号法の規程に基づいて新しい元号を定めたものであります。

新しい元号は「平成」であります。これは、史記の五帝本紀及び書経の大禹謨中の「内平かに外成る（史記）地平かに天成る（書経）」という文言の中から引用したものであります。この「平成」には、国の内外にも天地にも平和が達成されるという意味がこめられており、これからの新しい時代の元号とするに最もふさわしいものであると思えます。

この新しい元号は、事情の許す限り速やかに改元を行うという元号法の趣旨、国民生活の便宜等諸般の事情を考慮して、公布の日の翌日である一月八日以降について用いられることとなっております。

新しい元号の使用につきまして国民各位の御理解と御協力をお願いする次第であります。

元号は、千三百余年の歴史を有しております。単に年を表示する手段としてだけではなく、長い歴史の中で日本人の心情に溶け込み、日本国民の心理的一体感の支えにもなっております。

この新しい元号も、広く国民に受け入れられ、日本人の生活の中に深く根ざしていくことを心から願っている次第であります。

昭和六十四年政令第一号

元号を改める政令

内閣は、元号法（昭和五十四年法律第四十三号）第一項の規定に基づき、こ

付一 昭和から平成へ

の政令を制定する。

元号を平成に改める。

附則

この政令は、公布の日の翌日から施行する。

内閣告示第六号

元号を改める政令（昭和六十四年政令第一号）の規定により定められた元号の読み方は、次のとおりである。

平成

昭和六十四年一月七日

理 由

内閣総理大臣 竹下 登

皇位の継承があつたので、元号を改める必要があるからである。

宮内庁発表（昭和六十四年一月七日午前七時五十五分）

天皇陛下におかせられましたは、本日午前六時三十三分、吹上御所において、崩御あらせられました。

誠に哀痛の極みに存ずる次第であります。

天皇陛下には、昨年九月十九日夜吐血あそばされて以来、上部消化管から出血が断続的に継続し、胆道系炎症及び閉塞性黄疸も認められ、また尿毒症も併発されて、全力をあげての御治療も及ばず、遂に本日、十二指腸乳頭周囲腫瘍腺がんに因り崩御あらせられました。

吉岡市長随想 平成元年一月十五日付 広報滝川一、二三九号

ご冥福をお祈りして

吉岡 清栄

旧憲法下の統治権者としての天皇から、新憲法下では日本国の象徴天皇として激動の昭和にあって御在位六〇余年の長い歳にわたり、常に国家国民のため御心の休むることのない日々であったと拝察される大行天皇が、長期にわたる闘病生活と最高の医療をつくし

ての御治療もかいなく、ついに崩御遊ばされました。謹しんで弔意を捧げ、御冥福をお祈りする次第であります。

恐れ多いことながら、私が初めて大行天皇の御尊顔を拝したのは、昭和十一年本道で実施された陸軍特別大演習の折、道方から奉迎係補助員の委嘱を受けて、高齢者の奉迎世話係を務めた時でありました。軍装もりりしく白馬にまたがった御英姿を拝して感激に涙したことが今も鮮かにまぶたに浮かびます。

終戦後は、昭和二十九年に地方御巡幸で滝川駅頭にお出迎えの折と、また五十二年の地方自治三十年記念式に、咫尺しよまの間に御尊顔を拝して、自治体代表として受賞の榮に浴しました。越えて五十四年の藍綬褒章受賞の際と、五十五年の園遊会の御招待、更に先年の在位六〇年記念式典参列の折に、それぞれお元気なお姿でありがたいお言葉を賜わったことを想い出しひとしお感慨深いものを覚え、この度の崩御は誠にいたましく残念なことでの空洞化を感じます。

しかし、崩御が現実のものであり、明仁皇太子殿下が皇位を継承されて、元号法で基づく新元号は国の内外平かなりとの願いをこめて、中国の史実から引用されたと聞く『平成』と定められて、平成元年となりました。

去る九日、新天皇は朝見の儀でお言葉を賜りました中で、「皆さんとともに日本国憲法を守り、これに従って責務を果たすことを誓い、国連の一層の進展と世界の平和、人類福祉の増進を切に希望してやみません。」と、国民に語りかけられました。

私は、大行天皇の崩御に深い悲しみを覚えますが、英明な新天皇のお言葉をお受けして、これからの街づくり、国づくりに努めることが、今は亡き天皇の御冥福をお祈りするゆえんと考えるのと同様に、明年迎える開基百年に向けて最善の努力を期すべく決意している次第で、平成元年を意義あるものにしたものと思います。

付二 二世紀に飛躍する滝川

——滝川市開基一〇〇年記念事業のあらまし——

明治二十三年一月十五日、北海道庁令第一号をもって滝川村が誕生した。この年、滝川屯田兵四四〇戸の入植があり未開の荒野に開拓の鍬がおろされたが、この未踏の地の開拓は厳寒多雪の中にあつて、日常生活の窮乏と度重なる風水害等によつて極めて厳しいものであつたことは、各種の文献等により明らかである。しかし偉大な先人たちは、屯田兵を中心にこれらの苦難にうち克つ開拓魂をもつて滝川の建設に心血を注ぎ、今日の姿を現出させたのである。

滝川市は、開基以来いくつかの節目ごとに記念の式を行い、この先人たちの偉業に感謝し次代への展望を広げてきた。

市は五年後に開基一〇〇年を迎えることから、これら先人たちへの深い感謝と尊敬の念を一層強くし、滝川二世紀へ向けて更なる飛躍を遂げるべく、全市民の総意を挙げて記念事業にとり組むための具体的構想(一〇〇人構成による事業推進会議)をたてた。

1 開基一〇〇年記念事業企画推進会議(通称一〇〇人委員会)

一〇〇年にちなんで市民各層から八〇人の団体代表と、二〇人の

知識経験者、計一〇〇人の方々に委員を委嘱し、次の設置要綱により、昭和六十年七月一日発足させた。

(1) 滝川市開基一〇〇年記念事業企画推進会議設置要綱

(名称)

第一条 この会議は、滝川市開基一〇〇年記念事業企画推進会議(以下「一〇〇人委員会」という。)という。

(所掌事項)

第二条 一〇〇人委員は次の事項について協議するものとする。

(1) 式典、記念事業等に係る計画、実施の方針に関する事項

(2) 記念事業実施について必要と認める事項

(組織)

第三条 一〇〇人委員会は、別表に定める関係機関からすいせんされた者及び知識経験者(以下「委員」という。)の一〇〇人で組織し市長が委嘱する。

(任期)

第四条 委員の任期は、特別な事由がない限り事業完了時までとする。

(役員)

第五条 一〇〇人委員会に次の役員をおくこととし委員の互選により決定する。

会長一人、副会長三人、理事二〇人、監事二人

2 会長は、一〇〇人委員会を代表し、議事その他の会議を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

(顧問、相談役)

第六条 一〇〇人委員会は顧問、相談役をおく。

2 顧問は、会長が理事会に諮り推荐する。

3 相談役は、委員の互選とする。

(事業の実施期間)

第七条 記念事業は開基一〇〇年の年(平成二年)を中心に前後おおむね五

年にわたって実施する。

(会議)

第八条 一〇〇人委員会の会議は、総会、理事会、専門部会とし、次により開催する。

総会 年二回以上 理事会 必要の都度

専門部会 必要の都度

2 総会、理事会は会長が、専門部会は部会長が召集する。

3 会長及び市長は必要に応じ各会議に出席し意見を述べることができる。

4 会長は必要に応じ、相談役の意見を聞くことができる。

(部会)

第九条 一〇〇人委員会の専門部会は次のとおりとし副会長が部会長にあたり、その分担は会長が指名する。

企画部会 記念事業の総合企画立案に関すること。

式典、顕彰等の実施に関すること。

他部会との連絡調整に関すること。

事業部会 記念事業の企画、選定及び実施に関すること。

記念事業実施に係る財源の確保に関すること。

(経費の負担)

第十条 一〇〇人委員会の運営及び記念事業に要する経費は、直接市が負担するもののほか市交付金及び寄付金をもって充てる。

2 事業年度は、市の会計年度による。

(事務局)

第十一条 一〇〇人委員会の事務局は、機関、団体の長の承認を得て会長が委嘱する。

2 事務局は、開基一〇〇年記念事業等実施本部事務局内に置く。

(施行細目)

第十二条 この要綱に定めるもののほか、一〇〇人委員会の運営に必要な事項は、会長が理事会に諮って決定する。

附 則

この要綱は、昭和六十年七月一日から施行する。

付二 二世紀に飛躍する滝川

別表 一〇〇人委員会委員推薦機関団体

機 関 団 体 名	人 員	機 関 団 体 名	人 員
知識経験者	二〇	民生委員協議会	一
滝川ライオンズクラブ	一	建設協会	二
中央ライオンズクラブ	一	たきかわ観光協会	一
江部乙ライオンズクラブ	一	高等学校長	一
ロータリークラブ	一	消防団代表	一
滝川商工会議所	一	社会福祉協議会	一
江部乙商工会	一	老人クラブ連合会	一
滝川市農業協同組合	一	身体障害者福祉協会	一
江部乙町農業協同組合	一	子供会育成連合会	一
滝川農民協議会	一	江部乙屯田親交会	一
江部乙農民協議会	一	屯田兵遺徳顕彰会	一
空知土地改良区	一	遺族会(滝川・江部乙)	二
婦人団体連絡協議会	六	生涯学習振興会	一
婦人ボランティアクラブ	一	コミュニティ推進協議会	一
青年会議所	四	私学(幼稚園)	一
商工青年学園	二	三師会	三
青年団体連絡協議会	二	小さな親切運動滝川支部	一
勤労青少年ホーム利用者協議会	二	衛生推進協議会	一
滝川市文化団体連絡協議会	三	消費者協会	一
体育協会	三	交通安全協会	一
滝川地区労働組合協議会	一	滝川防犯協会	一
江部乙地区労協議会	一	自衛隊協力会	一
全日本労働総同盟滝川地区同盟	一	P T A 連合会	一

滝川卸商連盟	市議会議員会派代表	一
高齢者事業団	行政	一
金融協会	小・中学校長会	二
北門信用金庫	商店街振興組合連合会	二
道央しんくみ		一

(2) 滝川市開基一〇〇年記念事業企画推進会議委員

会長 近藤良四郎

副会長 山岸 幹男

理事 安彦 清

金山 倫子

佐々木良一

反田 恒

三浦 晃裕

今井 定利

相談役 猪口英之助

神部富美子

田中君太郎

松尾 政治

企画部会 部会長

部員 朝日 昇道

犬飼 克巳

遠藤 直美

金山 倫子

田端 真佳

猪股 栄三

川嶋慎之輔

高野 トシ

廣部 皓三

山内 康裕

中田 翼

後呂 義久

塩尻 一郎

続木 憲治

山本 康照

山岸 幹男

荒島 保

伊端三紀子

大崎 文夫

河原 正雄

中島キミ子

犬飼 克巳

笹木 和幸

戸井 康堯

細川 秀夫

岩崎 秀市

江川 虎松

少覺 納

中島 正雄

早弓 房松

井上 正雄

今井 定利

大島 巖

草沢 薫

川口 松男

小林 一磨

大川 平吉

佐々木幸治

中島 健

松尾 政徳

若山 良一

岡田 外之

高木 正義

猪股 栄三

遠藤サツ子

遠藤サツ子

猪股 栄三

猪股 栄三

猪股 栄三

猪股 栄三

猪股 栄三

猪股 栄三

事業部会 部会長

部員 安彦 清

岩崎 秀市

黒田テル子

島宗 宏光

相馬 亀郎

堤 輝美

中島 健

樋口 昭二

本間 茂

山本 綾子

米倉 慎一

田端 真佳

井尾 昌夫

大川 平吉

近藤富貴雄

嶋田 定雄

高野 トシ

坪谷 六郎

中田 翼

樋郡 英夫

前田 康吉

籾内 英之

湯沢 鉄雄

若山 良一

山内 康裕

廣部 皓三

中島キミ子

西岡 弘

高桑 芳吉

坂口 末一

佐々木幸治

田中 洋

田中 清義

谷口ヤス子

菅原 武男

菅原 武男

菅原 武男

菅原 武男

菅原 武男

菅原 武男

由良 寅三

日野 博

松尾 政徳

横山はるみ

芳村 和夫

明円 直志

反田 恒

野口 忠男

富沢 和雄

長田 勇

土田 好晴

土田 好晴

土田 好晴

土田 好晴

土田 好晴

土田 好晴

土田 好晴

土田 好晴

石田 昇

川嶋慎之輔

居林 幹生

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

河村 久男

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

関 清

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

谷口 昭

一〇〇人委員会前委員歴

高橋 豊・道仏文夫・坂本浩庸・田邊正男・佐藤民次郎・富家
稔・徳田次治郎・藤井直衛・東金次郎・宮島忠幸・安田敏夫・小

枝治雄・青木仁八・男澤義久・寺崎政朝・西山政市・山本義郎・飛鷹和男・小出 孝・柴田 勇・山崎登美子・佐藤友昭・丸山正平・柏原敏之・早弓弘行。

(3) 記念事業推進にあたっての基本的な考え方

一〇〇〇人委員会は、平成二年七月の滝川市開基一〇〇〇年を記念する事業を企画するにあたって、その記念事業を真に意義あるものにするため、実施にあたっての基本的な考えを次のように決定し大綱作成にあたった。

一〇〇〇年の歴史を回顧し、先人の偉業を讃えるとともに、その業績に感謝の念を捧げ、二世紀への飛躍に向けて市民協調のもとに、この時代に生きるものの創意や英知を結集した記念事業を企画推進する。

- 1 一〇〇〇年の歴史と伝統に培われた郷土の特色を生かし、後世の発展に役立つものであること。
- 2 開基一〇〇〇年を祝い、全市民が喜びをわかち合うものであること。
- 3 開基一〇〇〇年を契機に市民相互の連帯意識を深め、新しいまちづくりに積極的な参加意欲を高めるものであること。
- 4 事業は、市民の理解と協力が得られる実現可能なものであること。

(4) 開基一〇〇〇年記念事業の大綱

一〇〇〇人委員会は、市民のアンケートによる調査を実施し、寄せられた七七件について専門委員会において立案され、企画部会、事業部会、更に、理事会、総会の議を経て、記念事業の大綱を決定、滝川市長に報告した。

その後、実施のための具体的な検討を行うため、委員会を設置し詳細な検討を加え、最終的な事業内容を平成二年二月の第八回総会において次のように決定した。

記念事業・行事

記念式典及び祝賀会の実施

記念功労表彰

ジュニア大使使節団の海外派遣

記念品作成と贈呈

・市内全戸に「特製用字用語辞典」

・小・中学生に「記念下敷」

・幼稚園・保育園に「記念のまんじゅう」

テーマスローガン及びシンボルマークの制定（公募）

イメージソングの制定（歌詞公募）

市政功労者名鑑の発刊

記念誌及び市史続巻の発刊

記念映画の制作

市内学校図書 of 整備

文化・体育等イベント行事への協賛

記念施設の建設（平成二年完了）

一〇〇年記念塔の建設（北電公園）

「開拓の像」建立（農村環境改善センター前庭）

屯田開拓レリーフの建立（滝の川運動公園地内）

顕彰レリーフの建立（市民会館地内）

記念継続事業

池の前水上公園の造成（平成九年完了予定）

一〇〇年の滝を含む

東公園の造成（平成四年完了予定）

北海道の森造成（平成五年完了予定）

平成元年第一回植樹祭実施

こども科学館建設（平成二年完了）

航空公園の整備（平成七年完了予定）

たきかわの散歩道（平成二年完了）

2 開基一〇〇年記念事業等実施本部

滝川市開基一〇〇年記念事業等を円滑に実施するため昭和六十一年六月一日設置した。市長が本部長に、助役、収入役、教育長を副本部長とし、役員には市職員があたり、全庁体制で一〇〇人委員会の企画に基づき機能的に記念事業・行事等をすすめた（設置要綱略）。

(1) 「所掌事項」

総務部

- 1 テーマスローガン、シンボルマーク及びイメージソング作成に関する事

- 2 先人を敬う事業及び功労者顕彰に関する事

- 3 一〇〇年記念誌及び市史の編集、発刊に関する事

- 4 一〇〇年記念映画制作に関する事

- 5 他の部に属さない事

式典部

- 1 記念式典、祝賀会の企画及び実施に関する事
- 2 招待者名簿の作成に関する事
- 3 記念品に関する事
- 4 その他式典に関する事

- 5 記念品に関する事

事業推進部

- 1 一〇〇年記念施設等建設に関する事

- 2 記念総合文化祭及びスポーツ大会に関する事

- 3 国際交流、友好親善都市交流に関する事

- 4 協賛行事その他イベント等に関する事

- 5 その他事業推進に関する事

基金部

- 1 基金の造成に関する事

(2) 滝川市開基一〇〇年記念事業等実施本部組織

本部長 市長

副本部長 助役（荒島・岡田） 収入役 教育長

総務部 部長 企画調整部長

副部長 江部乙支所長 学校教育部長 生涯学習部長
生涯学習部参事

事業推進部 部長 建設部長

映画制作担当班

班 長 江部乙支所長 副班長 企業立地推進室長

班 員 企画課 企業立地推進室

記念誌編集担当班

班 長 生涯学習部長 副班長 図書館長

班 員 図書館 選管事務局(副主幹)

市史編集担当班

班 長 学校教育部長 副班長 選管事務局次長

班 員 学務課、図書館、総務課(主幹)、選管事務局(副主幹)

式典部 部長 総務部長

副部長 福祉事務所長 病院管理部長 消防長

議事事務局長 監査事務局長

記念式典担当班

班 長 福祉事務所長 副班長 税務課長

班 員 秘書室、税務課、福祉課、文化センター、病院管理

課、医事課、青少年教育課、保健センター、施設管理

課、江部乙支所、保育課

(式典当日は、市職員全員が担当する)

顕彰担当班

班 長 議事事務局長 副班長 職員課長

班 員 議事事務局、総務課、職員課、監査事務局

副部長 建設部技監 スポーツ振興部長、農務部長

土地利用計画室長、(兼)企画調整部長

(兼)商工部長、(兼)生涯学習部長

一〇〇年記念施設担当班

班 長 建設部技監 副班長 建築住宅課長

班 員 企画課、商工観光課、農政課、建築住宅課、都市計画

課

文化体育各種イベント担当班

班 長 スポーツ振興部長

副班長 生涯学習課長、商工観光課長

班 員 生涯学習課、スポーツ振興課、美術自然史館、

商工観光課、西高事務局、生活環境課、交通公害対策

課、企業立地推進室、デイサービスセンター

親善都市及び国際交流担当班

班 長 農務部長 副班長 企画課長

班 員 農政課、耕地畜産課、農委事務局 企画課

土地利用計画室

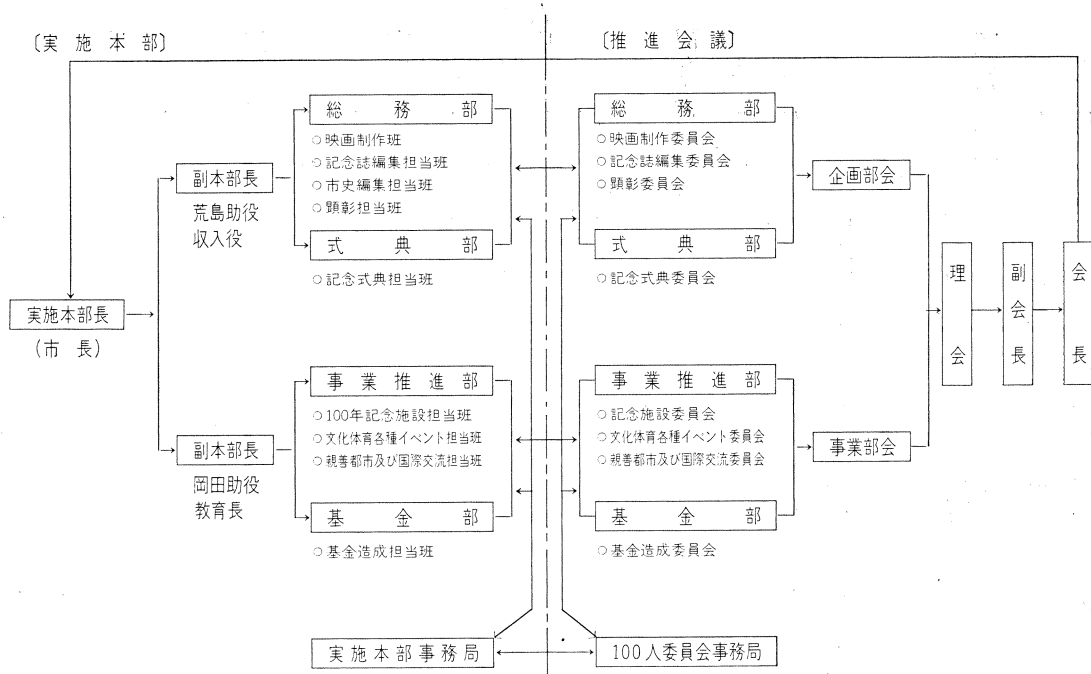
基金部 部長 商工部長

副部長 水道部長、民生部長、(兼)建設部技監

社会福祉協議会事務局長、建設部参事、水道部参事

基金造成担当班 班長 水道部長 副班長 会計課長

班 員 水道課、開発課、下水道課、財政課、土木課、会計課



滝川市開基100年記念事業等実施本部
滝川市開基100年記念事業企画推進会議
フローチャート

事務局

労働福祉課、市民課

事務局長

参事 (兼) 総務部長 (兼) 企画調整部長

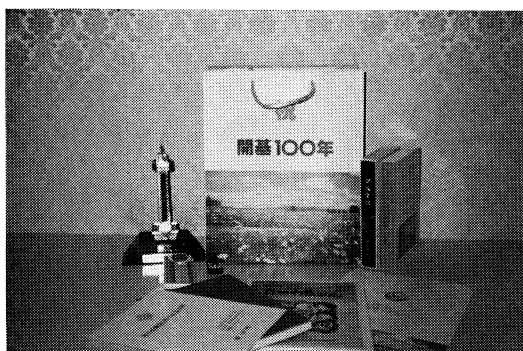
局員 (兼) 総務課主査 (兼) 選管事務局次長、(兼) 選管事務局副主

幹、一〇〇年事務局主査、一〇〇年事務局主事

嘱託職員、臨時職員

3 滝川市開基一〇〇年記念事業実施のあゆみ

- 昭六〇・七・一 一〇〇人委員会委員委嘱、第一回総会
- 昭六〇・八 一〇〇年記念事業アンケート調査
- 昭六〇・一〇・一 一〇〇人委員会事務局設置
- 昭六一・三・五 テーマスローガン等選定委員会設置
- 開基一〇〇年記念事業等大綱を決定し、滝川市長に報告
- 昭六一・六・一 一〇〇年記念事業等実施本部設置
- 昭六一・六・二三 テーマスローガン等決定、各委員会設置
- 昭六一・七・一 実施本部事務局設置
- 昭六三・一・一 一〇〇年記念テレホンカードの発売開始
- 昭六三・七・一 市制施行三十周年記念式典(滝川市青年体育センター)
- 平元・三・一八 NHK新番組「愉快にオンステージ」公開録画
- 平元・四・一 健康都市宣言
- 平元・四・二九 北海道の森づくりで「第一回植樹祭」
- 平元・八・二二 航空公園起工式(滝川滑空場)
- 平元・九・六 菊池寛生誕百年文藝春秋講演会開催
- 平元・一〇・一九 滝川イメージソング「歌詞」発表及び表彰式
- 平二・二・二三 一〇〇人委員会会長から「滝川市開基一〇〇年記念事業について」市長に報告
- 平二・六・二 水上公園「一〇〇年の滝」通水式



記念品のかずかず

一〇〇年記念塔新
築工事安全祈願式
(北電公園)

こども科学館新設
工事安全祈願式
(中央児童館)

平二・六・一五 開基一〇〇年記念

「用字用語辞典」

を滝川市民に贈

呈、滝川市内小・

中学校児童生徒に

「記念下敷」を贈

呈

平二・六・二八 滝川市内幼稚園・

保育園児に開基一

〇〇年記念品として「まんじゅう」を贈呈

平二・六・三〇 滝川市開基一〇〇年「前夜祭」(於ベルロード)

滝川市開基一〇〇年記念イメーシング発表会

「風がみつけた街・滝川」(於文化センター)

歌手 ダ・カーポ来滝

メモリアル歓迎塔除幕式(於栄町四丁目三番)

滝川市長招待歓迎レセプション(於ホテル三浦華園)

平二・七・一 滝川市開基一〇〇年記念式典・祝賀会

開拓の像除幕式、屯田開拓レリーフ除幕式

顕彰レリーフ除幕式

滝川市物故開拓先人及び市政功労者慰霊式

(於 滝川神社境内)

名護市・滝川市友好親善都市盟約式(於市民会館)

記念誌「市史外伝」発刊

親善都市交流フェスティバル(於コスモス広場)

平二・八・二六 ジュニア大使使節団出発(九・二二帰着)

付二 二世紀に飛躍する滝川

平二・九・一五 NHK特別巡回ラジオ体操会(於市宮陸上競技場)
平三・一・一五 往時を偲ぶ会(於文化センター)

4 厳肅ななかにも盛大な「記念式典」

先人の偉業を讃え 二世紀への飛躍を !!

滝川の二世紀を祝うかのようなスカイブルーの青空のもと、平成二年七月一日、この日、滝川市開基一〇〇年記念式典が正午より、道内外からの来賓、招待者及び市民など約一、八五〇人を迎え、滝川市青年体育センターにおいて厳肅ななかにも和やかなムードのうちに盛大に挙行された。

式典は、まずレーザー光線とスライドによる「滝川二世紀のはばたき」のスライドによって滝川市の現在までの歩みが紹介され、続いて滝川二世紀の飛躍を祈念するにふさわしい作品、故朝倉文夫氏作の「翼」像が披露され参会者に深い感銘を与えた。

その間、自治大臣代理野村隆自治省行政局振興課長補佐、横路孝弘北海道知事、渡辺省一・鳩山由紀夫・中沢健次・小平忠正衆議院議員、板垣武四北海道市長会会長・札幌市長、戸部智弘北海道開発局長、小田原昭陸上自衛隊第十一師団師団長、堂垣内尚弘前北海道知事をはじめ、友好親善都市の鈴木乙一郎栃木市長、岸慶蔵栃木市議会議長、比嘉鉄也名護市長、玉城敏夫名護市議会議長などの来賓の方々が着席され幕が上がり開会した。荒島助役が開会宣言をすると同時に五段雷の花火が館内外に鳴りひびいた。



記念式典で式辞を述べる吉岡市長

参会者全員により高らかに国歌が斉唱され、続いて開拓以来物故された先人の偉業に対し心からの黙とうを捧げた。

続いて、吉岡滝川市長が「この一〇〇年の風雪の中を開拓者精神、屯田魂により築き上げられた幾多先人の業績に感謝と敬意を表し、市民一丸となって産業を興し、教育、文化、芸術の薫り高い、福祉に満ちた住みよ

い健康都市滝川づくりに邁進することを誓う。」と力強く式辞を述べた。引き続き、近藤良四郎滝川市開基一〇〇年記念事業企画推進会議会長から記念事業についての報告が行われた。

次に、滝川発展の基礎づくりに尽くされた七人の先達を讃え、御遺族に記念品を贈呈、続いて開基一〇〇年を記念して、市の発展に寄与されその功績が顕著な方々の榮譽を讃えて記念功労表彰を行い、また、長年にわたり市政の推進に精励した市職員に表彰を、更に開基一〇〇年記念事業の推進に多大な御協賛をいただいた方々に感謝状の贈呈を行った。

顕彰者の御遺族には、高畑イク以下六人、記念功労表彰は開拓功労者として田中重次郎以下四人、自治功労者として田中君太郎以下一三九人、産業振興功労者として粟井利平以下四六人、民生功労者

として杉浦善正以下二三人、教育文化体育功労者として今野正義以下五人、特別功労者として猪口英之助以下二人、職員表彰として津田正一以下一〇人にそれぞれ贈られ、感謝状は、個人三四四人を代表して名誉市民高宮行男代々木ゼミナール理事長に、団体六〇七人を代表して株式会社中山組中山弘三取締役社長に贈呈され、その榮譽に対して参加者から万雷の拍手が寄せられた。

次に、当日御出席の来賓紹介が行われた後、来賓を代表して野村自治大臣代理、横路北海道知事、渡辺国會議員代表、戸部北海道開発局長、板垣北海道市長会会長、北海道市議会議長会会長代理の各氏から丁重な祝辞をいただいたあと、岡田助役が祝電を披露した。

引き続き受彰者を代表して、田中君太郎空知自動車学園会長が謝辞を述べた後、市内小・中学校児童生徒三二人により市民憲章が、続いて市青年男女二人による健康都市宣言が朗唱され、続いて開基一〇〇年を記念してつくられた滝川イメージソング「風がみつけた街・滝川」の披露が、歌手のダ・カーポと市内第二小学校及び東小学校の児童五〇〇人の合唱で行われた。

最後に、市民を代表して居林幹生市議会議長が、「先人の崇高な愛郷の至誠と不撓不屈の精神を受け継ぎ、心ふれあう緑豊かな生きがいのある郷土滝川市の建設のため五万市民一丸となって全力を傾注する決意をここに表明いたします。」と二世紀へ向けての決意を表明し、荒島助役の閉式のことばをもって、一時間三〇分にわたる記念式典を終了した。



記念式典における滝川イメージソング
「風がみつけた街・滝川」披露



開基100年記念祝賀会全景

和やかに記念祝賀会

記念式典終了後、会場を隣りの滝川スポーツセンターに移し、式典に参加された全員の方々が出席して記念の祝賀会が催された。

開会は、滝川宝生会の会員の方々による舞囃子「猩々」が披露され、続いて、滝川市長のあいさつ、友好親善都市の鈴木乙一郎栃木市長、比嘉鉄也名護市長のお祝いのごあいさつをいただき、前北海道知事で東日本学園大学堂垣内尚弘理事長の祝杯で祝宴に入った。

祝宴では、アトラクションとして滝川民謡連合会の方々による「津軽小原節」等が披露された後、遠来の名護市琉球舞踊団の方々が「琉球古典舞踊」を優雅に演じ参会者を喜ばせ、滝川竜栄大鼓の皆さんによる鮮やかなバチ捌きが披露され祝賀会を華やかに盛り上

付二 二世紀に飛躍する滝川

げ、和気あいあいの中で開基一〇〇年を喜び合った。
最後に、中空知広域市町村圏組合副理事長中川徳男砂川市長の発声による「万歳三唱」で盛会裡に祝賀会を終えた。

5 七月一日、当日の記念行事

(1) 除幕式

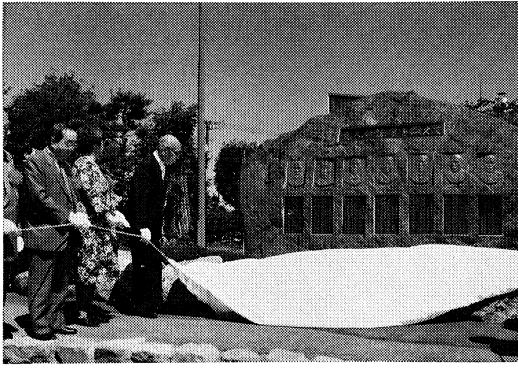
開基一〇〇年を記念し、開拓当時の先人を偲び、滝川市の興隆に力を尽くされた方々に感謝の念を形として残すこととし、記念式典に先だつてそれらの除幕式が行われた。

「開拓の像」 農村環境改善センター前庭に建立したもので、開拓の歟をおろした当時の屯田兵とその家族(妻、男女の子供、祖母)、五体の等身大の像で、小樽市在住の鈴木吾郎の制作である。

「屯田開拓レリーフ」 屯田兵が未踏の林野に開拓の汗を流している様子をレリーフしたもので、市内在住の長岡瀬山が制作し、滝の川運動公園地内に建立されたものである。

「顕彰レリーフ」 滝川市発展の基礎づくりに尽力された特別功労の左記七名の先人を讃えその顕彰碑を市民会館前庭に建立した。

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 高畑 利宜殿 | 大竹 康造殿 | 江藤恭太郎殿 |
| 五十嵐太郎吉殿 | 三澤貫之助殿 | 神部 為蔵殿 |
| 大崎 栄吉殿 | | |



顕彰レリーフ除幕式



記念祝賀会での琉球舞踊



滝川市・名護市友好親善都市盟約式



「開拓の像」除幕式



屯田開拓レリーフ除幕式

よすがとなった。以来この交流事業は継続され、最北と最南の意義ある提携が強まってきたことから両市の今後の発展を願い、互いに提携協力の歩みを続けることを願って、滝川市開基一〇〇年記念を契機とし友好親善の盟約を結んだものである。
盟約式は、平成二年七月一日午前十時二十分、滝川市民会館において行われた。

友好親善都市盟約書

滝川市と名護市とは、児童交換で培われてきた敬愛と友情を礎に、北と南の特色を生かした社会、経済、教育、文化の各面各層のさらなる交流により、相互の理解と友好親善を深め、市民福祉の増進と市勢の発展をはかることを目的として、ここに友好親善都市提携の盟約を締結する。

(続巻第十三編第四章第三節記
念碑の項参照)

(2) 盟約式

滝川青年会議所と名護青年会議所が、相互の理解と友好を深めるため昭和四十九年から行ってきた両市の児童交流事業によって、両市民の親近感は深まり、両市の将来展望を明るくする

平成二年七月一日

滝川市長 吉岡清栄
名護市長 比嘉鉄也

6 市民ぐるみの祝賀行事「前夜祭」

開基一〇〇年記念を祝う日が近づくにつれて、滝川市民の喜びが形づくられてきた。商店街ではシンボルマークと国旗を交差させて街路灯柱や店先に飾りつけられ、開基一〇〇年の大横断幕が掲げられるなど明るい華やかなムードが盛り上がった。

六月三十日、市の中心街である鈴蘭通り（ベルロード）では飾りつけがされた歩行者天国で前夜祭が午後一時から午後八時まで行われ



前夜祭 ベルロード風景



前夜祭での猿まわしの芸（ベルロード）



前夜祭 タイムカプセルにたよりを入れる子供たち

民吹奏楽団、市民合唱団、中・高校生一六〇人も参加し、最後は、会場を埋めた約九五〇人の市民も参加し全員によるイメージソングのハーモニーを文化センター内に響かせた。

た。
ひょうきんで可愛らしい猿まわし芸が子供たちをわかせた後、午後二時の花火打ち上げを合図に自衛隊北部方面音楽隊の演奏が加わってオープニングセレモニー。一〇年後の本人や友人、家族などにあてた手紙を投かんする「タイムカプセル二〇〇〇」もオープンし、周辺に子供たちの輪が広がった。このほか、五人一組のむかで競争に二〇組が出場して市民の声援をうけて全力奮闘。國學院大學女子短期大学のロックバンドの演奏、模擬店も数多く出店して市民を楽しませた。

午後三時三十分から、滝川市開基一〇〇年を記念し公募してつくられたイメージソング、「風がみつけた街・滝川」の発表会は、滝川市文化センターにおいて、歌手ダ・カーポが出演して行われた。市



滝川イメージソング発表会



歓迎レセプションでの市長あいさつ



歓迎レセプション

7 歓迎レセプション

滝川市長招待による歓迎レセプションが滝川ホテル三浦華園において、六月三十日午後六時三十分より開催され、自治省、大蔵省、農林水産省、山形県知事代理等の来賓、友好親善都市の栃木市長及び七月一日に滝川市と友好親善都市の盟約を行う名護市の代表、東京懇話会及びふるさと訪問ツアーの方々、滝川イメージソング発表会のために来滝された作曲家彩木雅夫、ダ・カーポの皆さんなど多数の方々のご参加により、華やかにしかもうちとけた雰囲気の中に開基一〇〇年を喜び合い盛会を極めたレセプションであった。

8 主な記念事業

一〇〇人委員会は開基一〇〇年記念事業をすすめるにあたって、市民の積極的な参加をうながすために、テーマスローガン(標語)、シンボルマーク及び滝川イメージソングの歌詞を市民から公募することとした。

それぞれについて選定委員会を設置し、テーマスローガンについては一八三点の中から、シンボルマークについては一九一点の応募作品の中から選定し昭和六十一年六月二十三日決定した。

(1) テーマスローガン

『一〇〇年を こえて未来へ のびる街』

明苑中学校一年 中川 裕紀子

(2) シンボルマーク



西谷 勲

(扇町二丁目二番)

開基以来、石狩・空知の両河川によって発展してきた滝川の姿を、石狩川の流に空知川が合流するさまと、滝川市のマーク（物）であらわし、上方への末広りの構図によって一〇〇年を基盤として二世紀に向けた限りない発展を目指す決意を表現した。

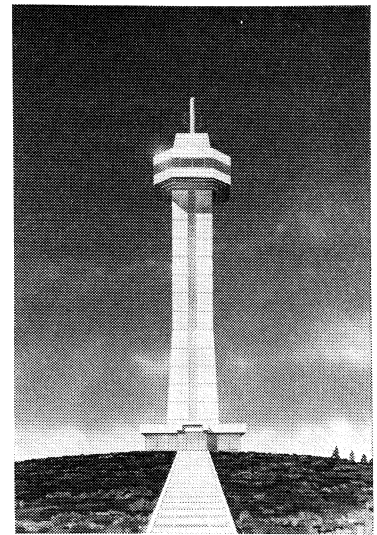
果てしない青空と清らかな流れ、即ち自然の恵みと自然を愛する市民の心を、青と白の二色によって統一的にあらわしたものである。

(3) 滝川市開基一〇〇年記念塔

記念塔は一〇〇年記念を迎えた滝川のシンボルとして郷土を考える学習の場として、また、周辺の水上公園、市民ゴルフ場、航空公園の中心的役割をもつ観光の場として北電公園に建設されるもので展望室の床面が標高一〇〇メートルになり、開基一〇〇年にちなんだ設計になっている。二世紀に向けて限りなく伸びる滝川市の未来を象徴するものとして、財団法人日本宝くじ協会の助成と、市内外からの数多くの方々の協賛により平成三年一月に建設された。

なお北電公園用地二二万六、一九二・五三平方メートルが北海道

付二 二世紀に飛躍する滝川



開基 100 年記念塔

電力株式会社から滝川市に、平成二年十二月三十一日無償譲渡されたことを特記しておく。

(4) 滝川イメージソングの作成

平成元年六月、滝川イメージソングの「詩」の一般公募を行ったところ、五七点の作品応募があった。イメージソング選定委員会は数多くの選考会を精力的に行った結果、市内西町三丁目在住の高橋啓治（五四歳）の「風がみつけた街」が選ばれた。

詩は、旭川市在住の鈴木宗敏先生が補作し、札幌市在住の著名な作曲家彩木雅夫先生に作曲を依頼し完成した。

さわやかなスケールの大きい曲で、滝川のイメージにぴったりの作品である。

滝川イメージソング

「風がみつけた街・滝川」

滝川市開基 100 年記念歌

風がみつけた街・滝川

歌 / ダ・カーポ

高橋啓治 作詞

鈴木宗敏 補作詞

彩木雅夫 作曲

付二 二世紀に飛躍する滝川

風がみつけた街は 青い空のもと
 彩とりどりにコスモスが うたっているよ
 風がみつけた街は 二つの流れが
 ちょうど一つに結ばれて 流れていくの

そうよ この花束を あなたに届けよう
 咲いて歌って 愛するひとと 夢をむすぶの
 ときめきの気持ちも カードに添えて

風がみつけた街は 青い空のもと
 憧れのせてグライダー 飛んでる街よ
 風がみつけた街は 緑のふところ
 太陽を浴びて子供らは 羊と遊ぶ

*そうよ コバルトブルー あの空の彼方へ
 夢の翼 大きく拡げ 愛するひとと
 幸福をみつけて 翔くために
 (*からくりかえし)

♩ = 103 C

1. 2. かぜ が 一 みつけ た まちは 一 一 あおい そ ら の も と { い ろ と り ど り に
 こ が れ の せ て
 コスモスが うたっ て い る よ かぜ が 一 みつけ た まちは 一 一 ふ た つ
 グライダー と ン だ る ま ち よ かぜ が 一 みつけ た まちは 一 一 み ど り

の な が れ が ろ ち ょ う ど ひ と つ に む す ば れ て な が れ て い く の そ う
 の ふ と こ ひ か り を あ び て こ ど も ら は ひ つ じ と あ そ ぶ そ う

よ こ の は な た ば を あ な た に と ど け よ う さ い て う た っ て あ い す る ひ と と
 コ バ ル ト ブ ル ー あ の そ ら の か な た へ さ い の つ ば さ お お き く ひ ろ げ

一 ゆ め を む す ぶ の と き め き の き も ち を 一 カ ー ド に そ え て 一
 一 あ い す る ひ と と し あ わ せ を み つ け て 一 は ば た く そ た め に 一

(5) 祝辞集「祝滝川市開基一〇〇年」の発行

平成二年七月一日に一〇〇年記念式を予定した滝川市は、式典中における来賓祝辞がどうしても時間的な制約をうけ限定されることから、予め祝辞を依頼し祝辞集として参会者に配布することとした。

また、式典では功労者表彰も行われるが代表者の受賞となり、表彰される方々の実績も一般には周知できないことから併せて掲げ、更に市内児童、生徒、学生の代表の作文と、事業推進に賛同し資金の協力をいただいた方々や団体の芳名も収録し、開基一〇〇年に寄せた滝川市民の熱い心を留めたいとしたものである。

(6) 記念誌「市史外伝」の発行

開村以前から現在に至るまでの滝川の歩んできた出来事の主なものについて約一〇〇項目を、それぞれの時代に分類してまとめた「市史外伝」は、開基以来一〇〇年にわたる滝川の歴史をダイジェスト的にまとめたもので、市民に郷土の理解を深めてもらうことを目的に発行した。

(7) 故朝倉文夫作「翼」像の設置

この「翼」の像は、滝川二世紀、そして間もなく迎える二十一世紀における滝川の飛躍、発展を祈念するにふさわしい作品として、多数の方々のご協賛と財団法人台東区芸術・歴史協会の御協力を得て設置されたものである。

付二 二世紀に飛躍する滝川

なお、当面は滝川市美術自然館に展示されているが、新しい市役所庁舎が建設された場合は、そのロビーに展示されることになっている。

(8) 滝川市功労者名鑑（第一集）の発行

この名鑑は、開基一〇〇年を記念して顕彰された七人の方々、滝川市名誉市民、及び滝川市において上申し又は滝川市に居住される叙勲・褒章の受賞者、並びに滝川市政功労者功労章・奨励章の受賞の方々を収録したもので、記念事業の一環として平成二年十一月三日発行した。

(9) ジュニア大使使節団海外派遣

滝川市開基一〇〇年記念事業のメインのひとつとして企画されたジュニア大使使節団の海外派遣事業は、北門信用金庫からこの事業に対する特別の寄付があったことから、当初の派遣予定人員を大きく上まわる生徒三二名（引率関係者六名、計三八名）という大使使節団の派遣となった。

ジュニア大使として参加の場合、自己負担一六万円ということもあったが、最近の海外事情に眼を向けようとする中学・高校生の関心は高く、応募者は一一三名にのぼり、その中から三二名の生徒が選考された。出発前に六回にわたる事前研修を行い、九月十二日出発、九月二十一日帰着という一〇日間で、カナダ、アメリカの各都市や学校等を訪問、ホームステイ等を通して交流を深め有意義に終

了した。

〔主な内容〕

エドモントン市 学校訪問交流、市内視察

スプリングフィールド市 ホームステイ

ホストファミリーと日常生活体験

学校訪問交流、招待レセプション

ボストン市 美術館・水族館・ハーバート大学

等の視察

「ハワイへ行ったことのある子ひとりを除いて全員が初めての海外旅行だが、これほど打ちとけ、新しいものを吸収してくれるとは思わなかった。」と団の世話役のひとりが語っていたように、カナダのエドモントン市、アメリカのスプリングフィールド市で行った学校訪問交流は、二、三時間の短い時間だったが、言葉を超えて意志を通わせ合い別れを惜しむ場面も数多くあったというし、片言の英語とジェスチャーで交わした会話や、ホームステイ家族の温かいもてなしに自信をつけた子供が多かったという。

生徒代表の大下賢記君の「アメリカ、カナダでの今回の経験を、自分たちのこれからの生き方の中に生かしてゆきたい。」ということばから国際親善交流が大きな広がりを持つことは確かなようだ。武内団長はじめ世話役の御苦労のおかげで、全員元気に帰ることができ、充実した一〇〇年記念派遣となったが今回の使節団の訪問がきっかけとなり、スプリングフィールドからも滝川市を訪れようといった声が高まっており、大きな土産を残してくれた使節団であ



ジュニア大使使節団結団式



エドモントン市ヒルクレスト中学校訪問交流の一コマ

った。

使節団名簿

団長 武内 敏彦
副団長 戸石 雅隆
副団長 江代 弘
団員(男十三人・女十九人)
随行員 西井 勝明
随行員 田村 弘
看護員 長棟 信子

坂田 興嗣	江陵中1年	保田 若菜	江陵中3年
出合 友洋	2年	上谷 奈穂	3年
首藤 昭彦	2年	保田 桂	3年
内山紗矢香	2年	小菅 康一	明苑中1年
浅川ルイ子	2年	藤田 麻弥	1年
馬場 智絵	2年	上口 徹也	2年
田中 良典	3年	土屋千津子	2年

宮田 晶子	明苑中2年	鈴木 美保	開西中3年
盛戸 麻衣	3年	加藤 智幸	江部乙中2年
深村 真澄	3年	黒田 由佳	2年
水戸 康智	開西中2年	青砥亜希子	3年
小林 大将	2年	坂口 慶江	3年
広森 友人	3年	渡辺百々代	滝川西高2年
原 芳紀	3年	大家 貴子	2年
平加 良子	3年	野田 聡暁	滝川高1年
木下あゆみ	3年	大下 賢記	3年

(10) 滝川市史(続巻)の発刊

郷土の歴史を市民の間に広く認識し、二世紀へ向けて市民としての意識を高めると同時に、郷土愛を培い、さらにはこの一〇〇年の歴史を後世に残すため、昭和五十六年に発刊した「滝川市史」の上巻及び下巻を補遺することを目的に昭和五十四年から平成二年までの史実を調査しその編さん作業を進めている。

この滝川市史は、B5判、約八五〇ページにまとめ、平成三年三月発刊の予定である。

9 開基一〇〇年記念の主な協賛行事

(1) NHK新番組「愉快にオンステージ」公開録画収録

開基一〇〇年を記念して滝川市を舞台にしたテレビ番組として、全国に親しまれている「のど自慢」が企画に上った。しかし、NH

付二二世紀に飛躍する滝川

K側の事情で無理であることが判明し、代りに平成元年四月から放送予定の新番組「愉快にオンステージ」の公開録画を滝川市で行いたいとの意向が示され、協議の結果、滝川市文化センターにおいて「滝川市開基一〇〇年記念」

NHK新番組「愉快にオンステージ」公開録画

を出演者武田鉄矢がホスト役、「爆風スランプ」をゲスト役として迎え、歌とトークショーで四月十日放送予定という企画がまとまった。

入場無料、往復はがきでの申し込み、メ切三月六日、定員は一、一〇一人で多数の場合は抽せんによる等、出演者等の企画が二月中旬の新聞各紙に報道された。反響は大きく毎日二〇〇通を越す申し込みはがきが届き、記念事業実施本部事務局は転手古舞、最終的に申し込み数は定員の約五倍、五、五三五人に達し、三月八日抽せんを行い、直ちに入場整理券を当選された方に、選に洩れた方々には謝意をこめたはがきをそれぞれ郵送した。

平成元年三月十八日、午後七時予定通り開演、武田鉄矢の軽妙な語りから幕があき、爆風スランプとの楽しい会話がふんだんに続き、そしてヒット曲「ランナー」を爆風スランプが歌い、武田鉄矢が「贈る言葉」を心をこめて歌い上げ幕が閉じられた。

この模様は、四月十日午後七時三十分から「第二回、愉快にオンステージ」として全国に放送された。

(2) 文藝春秋講演会

滝川市の開基一〇〇年記念と、菊池寛生誕百年を記念した「文藝春秋講演会」は、平成二年九月六日、滝川市文化センターにおいて約九二〇人の聴衆を集め、小説家の阿刀田高とノンフィクション作家の上坂冬子が、ユーモアと示唆に富んだ話しを披露し、満席の市民に感動を与えた。

阿刀田講師は、「小説家の頭」という演題で講演、同氏の作品「花の凶鑑」を例に上げ、「小説は虚構の世界と言っても、全くの得たためではなく、登場する男女の出会いを、よりリアルなものにするため、舞台となる現場を何度も訪れ、イメージを作り上げた。」など同氏の作品づくりの手法のひとつを紹介、風邪をおしての登壇だったが、ユーモアを混じえながら熱っぽく語った。

また、上坂講師は、「繁栄日本の陰に」と題し、広島・長崎で被災した多数の女性たちが戦後の復興期を支えたとする同氏の最近のルポを紹介するなど、ホールを埋めた聴衆を魅了した。

当日聴衆された方々には、全員に記念品として「菊池寛逸話集」が配られ、一〇〇年を記念する心豊かな行事となり、感銘を深くしたという声が多く聞かれた。

(3) NHK特別巡回ラジオ体操会

開基一〇〇年を記念して、NHK特別巡回ラジオ体操会が、平成二年九月十五日朝、滝川市営陸上競技場で開催した。

当日は、あいにくの空模様になり少しばかりの雨はあったが、講

師に長野信一さん、アシスタントにNHKテレビ体操でおなじみの高橋美雪さん、湊圭子さんの二人が加わり、幅しげみさんのピアノ伴奏で、集まった一、五〇〇人の市民が実技・歌唱指導を受けた後、大スピーカー八台から流れるリズムに合わせ、子供もお年寄りも思う存分手足を伸ばし、元気にラジオ体操を行った。

この模様は、NHKラジオ第一放送を通じて全国に生放送された。

◎ 結 び

市内外ばかりでなく国外からも祝福されて滝川市開基一〇〇年記念式典を盛会のうちに終了でき、また各種記念事業も計画通り実施できたことは、滝川市民としてまことに快哉の極みであり、これからの新しい出発の意気を強く認識させられたものであった。

開基一〇〇年を迎えるにあたって市は市民各層からの英知と行動とを期待し、記念事業を成功させるために一〇〇年記念事業基金を昭和五十九年に創設した。次に、滝川市開基一〇〇年記念事業企画推進会議を設置するとともに、構想、立案そして実施の作業を開始した。

一〇〇人委員会(推進会議)は昭和六十年七月設置以来、記念事業が市民一人ひとりの事業として意義あらしめるため日夜苦勞に苦勞を重ね、実施本部と歩調を一にし各部門の業務を推進してきた。殊に、基金造成の面において、企業や団体、及び町内会等への呼びか

け、協賛を得るための努力はきびしいものがあつた。一〇〇人委員会としては記念事業を推進するための浄財として一億円を想定していたところであつたが、町内会関係においての二一〇件、五三二万七、〇〇〇円を含め、八三一件、一億五、七三五万円になり、市が直接取扱つた分と合わせると、実に総額約二億一、八九〇万円に達し、当初想定の上の二倍以上となり関係者の驚きと喜びは大へんなものがあつた。これは真に滝川市挙げての記念事業となつたことの意味はもちろんだが、滝川の二世紀が市民にとって大きく期待できるものになつたと確信できる。

記念式典における式辞の中で吉岡市長は、「現実をしっかりと見据えつつ、未来への夢に市民誰もが目を輝かせるまち、そんな夢を現実化されるものこそ、開拓者精神、屯田魂である。それを私たち一人ひとりの心の中に持ち続け、市民一丸となつて住みよい健康都市滝川づくり邁進しよう」と述べているが、この式辞が、滝川二世紀に向けて一〇〇年記念事業の締めくくりと言えよう。

『一〇〇年を「えつ未来」のびる街』

